

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 8月17日

【評価実施概要】

事業所番号	3270100617
法人名	医療法人社団 回春会
事業所名	グループホーム 悠々の家
所在地 (電話番号)	松江市川原町308 (電 話) 0852-34-1800
評価機関名	財団法人 出雲市ひらた福祉公社
所在地	島根県出雲市平田町2112-1 平田福祉館2階
訪問調査日	平成19年 8月 1日

【情報提供票より】(19年 6月12日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 13 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 11 人, 非常勤 0 人, 常勤換算	7.8 人

(2)建物概要

建物形態	併設／ <u>単独</u>	<u>新築</u> ／改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建て	1 階 ～ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,600 円		

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	名		
年齢	平均 88 歳	最低 82 歳	最高 93 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	学園クリニック、末森歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは周囲が山や田、畑といった環境の中にあり、木造作りの外観で、木材が多く使われた内部環境は、柔らかく温もりが感じられ、利用者の様子からも安心感が伝わってくる。認知症高齢者に対し、よりよいケア環境を提供したいという開設に至った経緯とも併せ、管理者、職員からは認知症のケアに対する熱意と情熱が感じられる。平成12年の開設以来、法人が設置運営し隣接する他の事業所との連携強化も図られ、できる限り利用者やその家族に負担がかからないサービス提供がなされている。職員の声掛けや対応はあくまで利用者のペースに合わせたさりげなく穏やかなものであり、利用者主体で尊厳と自己決定に配慮がなされ、自立生活に向けたケアが提供されている。法人はISO資格を取得し、自己評価や外部評価を通して、ケアの質の向上にも前向きな姿勢が見受けられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の課題の内、「相談・苦情受付の明示」に関しては、意見箱も設置し、相談窓口も決め、リスクマネジメント委員会等での対応手順が、重要事項説明書や事業所内にも明示されているものの、対応側が事業所に限られていることから、重要事項説明書等への、国保連や市町村、運営適正化委員会の窓口の明示、併せて、第三者委員の選任など積極的な取り組みが望まれる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議を開催しサービスの内容を報告・協議しており、参加者(地域)にも運営推進会議が設けられたことで、介護(福祉)に関しての情報の共有や、地域の福祉ネットワーク等に関してより積極的な姿勢が見られ、公民館での文化祭での介護教室開催の話も出ている。管理者は市の担当部署を度々訪問し、報告を兼ね、協議するなど、密に連携をとり、サービスの質の向上を目指し取り組んでおり、また、法人の事業所と協働して、担当包括支援センターのブロック会議等への情報提供等もなされている。
	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者の日々の生活の様子を、面会時や電話等で家族に伝え、加えて、毎月、個々の利用者の担当職員から、生活状況・健康状態等を手書きの書面(文書)にて家族に報告(送付)している。 また、家族等から出された意見、苦情等は職員で話し合い共有し、前向きに受け止め、運営に反映させている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ボランティアの受入れは積極的で、隣接の老人保健施設等の行事参加や、近隣の幼稚園行事への参加、また行事外出や散歩、近くのコンビニエンスストアへ買い物に行くなど、楽しみごと、気晴らしの支援がなされている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念であり、運営規程にも「地域の中にあつて、(略)、家庭的な環境のなかで…」と明記されており、ホーム内にも掲示され、更に分かり易い言葉で利用者や面会者にも伝える取り組みがなされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者はグループホームの運営に対する理念と熱意が感じられ、毎日の朝礼や申し送りにて、理念に基づいた業務等に関する確認・支持もなされている。また、理念を各所に掲示することや、経験豊かな職員を配置し、OJTを実施することにより、理念に基づいたケア提供に向けての意識統一、徹底を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ボランティアの受入れや、幼稚園行事への参加などは実施されている。 同法人の関連施設と協働し行事(祭り)を開催し、地域に対し参加への呼び掛けやボランティアの受け入れを行っていたが、昨年度からは施設整備等の関係で開催されていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は、評価を実施する意義を理解しており、訪問の当日も、事業所の質をより良くしていこうとする積極的な姿勢が見られる。ISOのスキルで、職員の自己評価(人事考課)も実施されている。またこれまでの外部評価の改善項目に対しては、具体的な改善に向けての取り組みもなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催し、サービスの提供等、報告し協議しており、参加者(地域)にも運営推進会議が設けられたことで、介護(福祉)に関する情報の共有や、地域の福祉ネットワーク等に関してより積極的な姿勢が見られ、公民館の文化祭での介護教室開催の話も出ている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市の担当部署を度々訪問し、報告を兼ね、協議するなど、密に連携をとり、サービスの質の向上を目指し取り組んでいる。 また、法人の居宅介護支援事業所と協働して、担当の包括支援センターのブロック会議等への情報提供等もなされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の生活の様子を、面会時や電話等で家族に伝えている。また、毎月、個々の利用者の担当職員から、生活状況・健康状態等を手書きの書面(文書)にて報告(送付)している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見(苦情受付)箱も設置され、相談、苦情担当(窓口)の職員も決められ、リスクマネジメント委員会を設置するなど、対応方法も明確で、事業所内にも明示され、入居時の説明もなされ同意は得てはいるものの、事業所のみでの対応に限られている。	○	苦情等は事業所に対しては出し難いものであることを考えると、重要事項説明書等に、国保連や市町村、運営適正化委員会の窓口の明示、併せて、運営推進会議メンバーの協力を得るなどし、第三者委員の選任など積極的な取り組みが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	周囲の人を和ませるような雰囲気を持った職員といった認知症高齢者のケアに適した職員、同法人の老人保健施設で認知症の現場を経験した職員を配置するなどの配慮がなされている。 加えて、ホーム自体の職員の異動・退職は少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び計画作成担当者は、認知症介護実務者研修基礎課程、計画作成担当者については、認知症介護実務者研修専門課程を受講するよう計画に定められ、外部で開催される研修にも、必要性や無いうように応じて参加し、復命研修も行っている。また、経験のある職員を配置し、常時、OJTを確保している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会はなく加入していないが、他の事業所との連携を密に図っており、外部研修に参加の折等、機会があれば積極的に情報交換も行っている。 また他の事業所の訪問・見学も行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	アセスメントにより利用者個々の価値観やライフスタイル等の個人因子は把握され、家族とも相談し、利用者とも会話しながら、家庭的な雰囲気の中で、利用者が安心してホームでの生活に馴染めるように努めている。訪問日の10日程前に入居した利用者がいたが、職員のケアからもそのことが窺えた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、利用者を尊重するように全職員が意識統一を図り、利用者主体のゆっくりとした時間、穏やかで暖かい生活が送れるよう、ケア提供がなされている。また、訪問日のケアや職員のヒアリングでもそのことが窺えた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に、一人ひとりの思いや望まれる生活を聴き、意向に添うように努めている。 加えて、本人の意向把握が困難な場合には、日々の生活の中から、本人の希望や意向を導き出すよう努め、決して職員の一方的判断とならないよう注意している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居前、または、入居後の家族の面会時や電話を利用して、近況報告をし、利用者本人及び家族と話し合いながら要望、意見を聞きながら課題を把握し、ケアカンファレンス、モニタリングなどを通して、チームで介護計画を作成、共有化している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画書の期間終了時(3ヶ月ごと)に加えて、状態が変化した時などは適時にケアカンファレンス実施し、課題ごとに検討・協議がなされており、モニタリングを通しての介護計画の見直し、策定を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族等の状況に応じて、事業所内での医療に関わる緊急対応や通院支援、買い物や外出支援、送迎等、必要な支援には柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人・家族の希望に沿い、かかりつけ医にも受診ができ、常時連絡が取れるように関係を築くなどの支援を行っている。 加えて、利用者本人及び家族に確認・同意を得た上で、利用する協力医療機関を確保しており、家族と共に連携を密に行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末ケアに関する対応マニュアルは策定し、家族、かかりつけ医と連携を図り、十分な話し合いの上で方針の共有を図り、対応する体制は整備されている。契約書には、「専門的な医学的対応が必要な場合は他の専門的機関を紹介」と規程にあるが、重度化への対応に関しては、個々の状況・状態によって異なることから、上記同様の対応が図られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	衣服の乱れや汚れがあればそっとカバーするような対応がなされており、排泄介助の際もプライバシーが守られ、居室に入る時は必ずノックや声がけがなされている。また、本人の「現実」を否定しないよう、全職員が意識統一を図って対応しており、加えて、個人情報に関しては十分に配慮し取り扱いがなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当日も、利用者の着衣や髪型(色)等は、個々の好みに応じた個性的なものであり、入居者のペースに合わせ、常に利用者主体のケアが見て取れた。 職員のヒアリングからも、職員の都合にではなく、利用者一人ひとりのペースに合わせたケアの有りよう、柔軟な対応が窺えた。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者それぞれの状況に合わせ、パン食、刻み食、ミキサー食等に対応しており、当日も柔軟に形態変更の対応がなされていた。また、食事準備や後片付けは利用者と職員が一緒に行い、食事も職員は利用者と同テーブルにつき、世間話などをしながらの食事風景であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝風呂こそ実施していないが、入浴は毎日の入浴や、1日おきなど個々の利用者の希望に合わせて実施されている。時間帯についても、夜間入浴も含めて本人の希望で入浴できる体制が整っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、入居者の得意なことを発表できる場を作り、役割、楽しみ事の支援を行っている。また、隣接の老人保健施設等の行事に参加したり、行事外出等、楽しみごと、気晴らしの支援もなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出希望者に対しては、散歩や、近くのコンビニエンスストアへ買い物に行くなど、利用者の希望に合わせ対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関が施錠されることはなく、入居者、家族等とも自由に出入りができ、当日も掃出し窓は開放されていた。また、外出する場合は、必ず玄関から出るように声掛けを行い、外出時は必ず職員が付き添い、安全面での配慮を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得、隣接の老人保健施設等と協働で年に2回、防災訓練を行っている。地域の方にも参加依頼し、協力も得られている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接の老人保健施設の献立を参考にし、平均1600カロリーの食事提供を行っており、食事の形態は、利用者それぞれのカロリー制限や咀嚼能力等に合わせ柔軟に対応している。食事・水分摂取量は利用者個々にチェックし把握、併せて体調管理の指針とするため体重測定も定期的に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは穏やかな印象を受け入れるよう木目調で統一し、照明は和紙のシェード仕様の間接照明で、外部採光とも併せ、柔らかく心地良い。壁には季節に応じた利用者手作りのタペストリーなどの作品が掛けられ、温かみを感じられる。窓も開放され空気の淀みもなく、職員の声掛けも小声であり、テレビの音なども利用者に不快感を与えないよう調節している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等は持ち込まれており、生活用品を使いやすいように設置はしてあるものの、馴染みの品を含めて生活備品が少なく、淋しい感じを受け、家庭的な雰囲気を有し、個々の利用者一人ひとりに合った落ち着いた十分な居室環境作りまでには至っていない。	○	居室は、利用者がホームでこれから生活していく上での最も大切な空間。様々な事情があると考えられるが、家族にも働きかけ、馴染みの品や使用していた物、家庭家具や生活用品が居室にあることで、利用者が落ち着け、「ここが自分の居場所」と感ずることができる、温かい家庭的な雰囲気を持った居室作りに向けての取り組みが望まれる。